

強度行動障害を有する利用者 の支援事例



株式会社いんどり
グループホームおっぽこ
代表取締役 的羽大輝

自己紹介

氏名: 的羽大輝

生年月日: 1987年3月1日

職歴:

2007年入社

知的障害者入所施設

2020年退社

2020年入社

生活介護、共同生活援助

2021年退社

2021年10月法人発足

2022年6月おっぽこスタート

理念: 親なきあとに安心の手を

事業内容:

共同生活援助

・おっぽこ岸和田

・おっぽこ熊取

行動援護

・おっぽこあるこ

2024年9月頃

おっぽこ和泉開所予定

やっぱりいろどり



当事者の概要

40代男性
既往歴:知的発達症(重度)および強度行動障害を有する。

行動障害:異食行動
(異食に不随する多動)



異食行動

画鋸や電池を食べた事がある。ただし他者の部屋に入ってまで異食する事はない。



自室の環境

物損や他者への危害を防ぐため、自室では敷布団以外の設置物はない。

利用後には強度行動障害を含む、さまざまな行動が表出する。

①コンセントを外して舐める

電源コードを口に舐めたり、肛門に押し当てる。

②ボールペンを奪い取り先端を舐める

ボールペンに含まれるインクや細かい部品の異食の危険。

③他者の部屋に入りテレビリモコンの蓋を開けて電池を口に入れる。

他者の部屋への無断侵入や電池の飲み込みは避けるべき。

④天井に設置している消防設備やカメラを無理やり取り外して物損。

無理に天井に設置された物を取り外すことで物損における異食を招く可能性がある

⑤机のネジを取って口に入れようとする

机のネジを取り外す行為は事故や怪我の原因となる。

⑥薬袋を口に入れる。

薬袋を誤って飲み込むことは健康被害を引き起こす恐れがある

行動分析に基づき、興味の強い要素を特定



行動分析に基づく支援

本人の行動分析から、反射で光っている、なめらかで舌触りが良さそうなもの、カサカサと音になるものに興味が強いことが判明。

環境調整と代替物の準備が重要。

ハード面の調整

刺激物の減少と利用者の安全確保を目指して、環境を整える。

代替物の準備

刺激として代替できるモノを用意し、本人が楽しく前向きに過ごせるようにする。

ハード面の調整

POINT 01

・各居室にオートロックを設置。

POINT 02

・文房具を、取り外せないようにして本人の目に触れる場所で使用しない。

POINT 03

・薬を事前にケースに移し替えて、服薬時に薬袋が無いようにする。

POINT 04

・ネジが見えない机に変更。

POINT 05

・リモコン等の電池ケースがついている物はすべてネジ止め。

POINT 06

・扉をマグネットロックに変更。
※今まではワイヤーロックをしており、扉を開こうとすると中が見えていた。

POINT 07

・口に入れる代替として、焼き芋や干し芋(低カロリーで腹持ちが良い)を準備。



①各居室にオートロック





②文房具の調整





③薬を事前にケースに移し替えて
服薬時に薬袋を無くす。





⑤家電のネジ止め





⑥扉のマグネットロック



本人の興味に基づいた環境調整を行い、自室や自室外での快適な過ごし方を検討。

 Our Goal 01

リビングで「おかあさんといっしょ」を視聴

リビングでの過ごし方を自然な形でサポート。本人が好む番組をリビングで一緒に観ることで、安心感と満足感を得られるようになった。

 Our Goal 02

アンパンマンの絵本を準備

本人が興味のあるアンパンマンの絵本を部屋に準備。彼の好きなキャラクターに囲まれていることで、自室で楽しく時間を過ごせる環境を整える。

リビングや自室での活動風景



対策と課題

1 対策の結果

本人にとって気になる物が減り、穏やかに過ごすようになりました。顔つきも柔和になり、食事摂取量が増加。

2 持続する課題

依然として気になる物がある場合は、同様の行為が引き続き見られます。本人に対する個別な支援が必要。

当事者目線の不安や違和感、考え方の変化

1 こだわり行動の背景にある問題

不安や違和感が拘り行動に関わっている可能性があるため、環境の整備が必要。

2 ICD-11の変更と障害の理解

ICD-11で「障害」が「症」に変更、発達歴や成育歴を考慮した支援が重要。

口唇期の特徴

1 成人期の知的発達症と口唇期の関連

成人期の知的発達症として口唇期の断定は難しいが、口唇期の発達段階に似た特徴が観られている。

2 口唇期の特徴とは

口唇期では口を通じて快感を得ることが特徴。母乳を飲む、指をしゃぶる、物を口に入れるなどが含まれる。

インフォーマルアセスメントの重要性

1 標準的なアセスメントに加えて

成育歴、趣味嗜好、好きな事、場所、音、モノ。嫌いな事、場所、音、モノを把握する事で本人にとって前向きで楽しい関わり方が出来る。

2 包括的な支援への必要性

インフォーマルアセスメントを関係者に共有する事で、どこでも誰とでも本人にとって刺激の少ない環境を作る事が出来る。チームでの関わりが重要。